

2026年1月8日

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

2025年度日本PR大賞が決定！

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」
ミヤクミヤク

(大阪・関西万博 公式キャラクター)

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
特定非営利活動法人 green bird

(ゴミ拾いを文化にし、ポイ捨てのない社会を目指すNPO法人)

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：山口恭正、所在地：東京都港区）はこのほど、2025年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に大阪・関西万博 公式キャラクターのミヤクミヤクを、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に特定非営利活動法人 green bird（ゴミ拾いを文化にし、ポイ捨てのない社会を目指すNPO法人）をそれぞれ選出・決定いたしました。

同賞の授賞・表彰式は新年1月23日（金）六本木・国際文化会館で開催される「新春PRフォーラム2026」（主催：日本パブリックリレーションズ協会）において行います。



2025年度 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

ミヤクミヤク（大阪・関西万博 公式キャラクター）

日本PR大賞は、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」としてパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人を、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」には、持続的に社会や地域の発展に寄与する活動を行い、独創的な広報・PR活動を実践することで、奨励に値する成果を収めた個人またはグループを対象に表彰するものです。

1998年に日本PR大賞として創設して以来、年1回の表彰を行っています。

両賞の選考・授賞理由は以下のとおりです。

<2025年度 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 ミャクミャク（大阪・関西万博 公式キャラクター）

■授賞理由

2025年、さまざまな課題を抱える中で開催した大阪・関西万博において、公式キャラクターのミャクミャクは国民的に愛される存在となり、万博を見事に盛り上げたPRパーソンです。万博の開催にあたり、初登場時は様々な声がありました。しかし、開幕を迎えて来場者が増えると「大好き」「かわいい」と支持が一気に広がり人気は急上昇。多くの人にとってその存在が万博を身近なものへと変えていきました。閉幕を惜しむ声の中にはミャクミャクに対する思いも多く聞かれました。

「みんなが万博を楽しんでくれたおかげ」と感謝を示し、前向きなメッセージを発信。世論形成の観点からも優れたPRパーソンとして評価しました。

■ミャクミャク プロフィール

<https://www.expo2025.or.jp/overview/character/>



<2025年度 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 特定非営利活動法人 green bird

(ゴミ拾いを文化にし、ポイ捨てのない社会を目指すNPO法人)



■授賞理由

特定非営利活動法人 green birdは、2003年の設立以来、「誰でも、気軽に、楽しく参加できる」清掃活動を起点に、世代や立場を超えて人々をつなぎ、社会全体を巻き込むムーブメントを築いてきました。

一人ひとりの小さな行動が社会を動かす力になることを示し続け、環境美化にとどまらない多様な社会的価値を創出しています。

活動は日本国内にとどまらず世界へと広がり、SDGsや地域共生の文脈で再注目される中、単なる清掃活動を「街を誇る文化」へと転換した点は特筆すべき特徴です。

さらに、SNSで発信しやすい仕組みや企業との協働など、PR性の高さも顕著であり、理想的なパブリックリレーションズ活動として高く評価しました。

■特定非営利活動法人 green birdとは

特定非営利活動法人 green birdは、単なる清掃ボランティア団体ではなく、「おしゃれでかっこいいごみ拾い」という“文化”を通じて、ポイ捨てのない社会をみんなで育てるNPOです。法人としての透明性も重視し、寄付受付や活動報告書の公開、全国・海外への展開により継続的に社会発信しています。

<https://www.greenbird.jp/>

＜日本PR大賞とは＞

日本PR大賞は、日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）の公益事業として、パブリックリレーションズの普及・浸透のために、「企業と社会の共生」、「公益の実現」などに貢献した人・組織を表彰する制度である。第1回は1998年度。

<https://prsj.or.jp/personcitizen/>

■選考方法

日本パブリックリレーションズ協会会員および一般への公募により受賞候補者・団体の推薦を得て、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」それぞれ10組程度の候補者リストを作成し、顕彰委員会と有識者により決定。

■推薦基準

◇ 日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

経済、文化、スポーツ、社会、教育などの分野でパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最も活躍した人

◇ 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

持続的に社会や地域の発展に寄与する活動を行い、独創的な広報・PR活動を実践することで、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPO等含む）

＜ご参考＞

■パーソン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和 6 年度（2024 年度）

小田 凱人氏（プロ車いすテニス選手）

令和 5 年度（2023 年度）

YOASOBI 氏（音楽ユニット）

令和 4 年度（2022 年度）

羽生 結弦氏（プロスケーター）

令和 3 年度（2021 年度）

根本 かおる氏（国連広報センター所長）

令和 2 年度（2020 年度）

池江 璞花子氏（競泳選手）

令和元年度（2019 年度）

ジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）

平成 30 年度（2018 年度）

渡辺 直美氏（お笑い芸人）

平成 29 年度（2017 年度）

加藤 一二三氏（棋士）

平成 28 年度（2016 年度）

小池 百合子氏（東京都知事）

平成 27 年度（2015 年度）

リーチ・マイケル氏（ラグビー日本代表主将）

平成 26 年度（2014 年度）

唐池 恒二氏（九州旅客鉄道株式会社（JR九州）代表取締役会長）

平成 25 年度（2013 年度）

佐藤 真海氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR 推進部・パラリンピアン）

平成 24 年度（2012 年度）

ドナルド・キーン氏（米コロンビア大学 名誉教授）

平成 23 年度（2011 年度）

佐々木 則夫氏（サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）監督）

平成 22 年度（2010 年度）

池上 彰氏（ジャーナリスト）

平成 21 年度（2009 年度）（この年までは「日本 P R 大賞」）

辻井 いつ子氏（ピアニスト 辻井 伸行氏の母親）

平成 20 年度（2008 年度）

該当者なし

平成 19 年度（2007 年度）

東国原 英夫氏（宮崎県知事）

平成 18 年度（2006 年度）

川島 隆太氏（東北大学 加齢医学研究所教授）

平成 17 年度（2005 年度）

野口 聰一氏（宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部宇宙飛行士）

平成 16 年度（2004 年度）

古田 敦也氏（日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ選手）

特別賞 故 伴 信雄氏（日本パブリックリレーションズ協会 初代理事長）

平成 15 年度（2003 年度）

北川 正恭氏（早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事）

平成 14 年度（2002 年度）

川淵 三郎氏（前日本プロサッカーリーグ チェアマン）

特別賞 茂木 友三郎氏（日本醤油協会会长、醤油 P R 協議会会长）

平成 13 年度（2001 年度）

野口 健氏（登山家）

平成 12 年度（2000 年度）

柳井 正氏（株式会社ファーストリテイリング 代表取締役社長）

平成 11 年度（1999 年度）

乙武 洋匡氏（『五体不満足』の著者）

企業部門賞受賞者 カルロス・ゴーン氏（日産自動車株式会社 C O O）

文化・スポーツ部門賞 松坂 大輔氏（プロ野球選手（西武ライオンズ））

社会部門賞受賞者 乙武 洋匡氏（『五体不満足』の著者）

特別賞 福川 伸次氏（電通総研所長）

平成 10 年度（1998 年度）

中坊 公平氏（弁護士・株式会社住宅金融債権管理機構 代表取締役社長）

企業部門賞受賞者 沢田 秀雄氏（株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役社長・スカイマークエアラインズ株式会社 会長）

文化・スポーツ部門賞 KONISHIKI（元大関小錦・タレント）

社会部門賞受賞者 向井 千秋氏（宇宙飛行士・医師）

特別賞 猪狩 誠也氏（東京経済大学 教授）

■シチズン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和 6 年度（2024 年度）

一般社団法人まちライブラリー（「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館）

令和 5 年度（2023 年度）

Paix²（ペペ）

令和 4 年度（2022 年度）

内閣府承認 NPO 法人全国てらこやネットワーク

令和 3 年度（2021 年度）

COVID-19 多言語支援プロジェクト

令和 2 年度（2020 年度）

一般社団法人「ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ」

令和元年度（2019 年度）

一般社団法人「注文をまちがえる料理店」

平成 30 年度（2018 年度）

気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂

平成 29 年度（2017 年度）

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

平成 28 年度（2016 年度）

くまモン（熊本県マスコットキャラクター）

平成 27 年度（2015 年度）

いすみ鉄道株式会社

平成 26 年度（2014 年度）

NPO 法人富岡製糸場を愛する会

平成 25 年度（2013 年度）

NPO 法人本屋大賞実行委員会

平成 24 年度（2012 年度）

大廻 政成氏（財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事）

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRSJ）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F
TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147